



<大会レポート>

第60回都市計画全国大会に参加して

はじめに

平成20年11月6日から7日まで二日間にわたり、島根県にて第60回都市計画全国大会が開催されました。今回、同大会に参加させていただき、同県及び全国各地のまちづくりの状況等を学ばせていただきました。その時の状況を御紹介いたします。

まず、会場となりました島根県について説明します。島根県は面積約6,708km²、人口約74万人、日本海側の山陰地方に位置し、鳥取県、山口県及び広島県と接しています。県庁所在地は松江市で、シジミで有名な宍道湖、平成19年に世界遺産となった石見銀山等を抱えています。また、奈良時代の状況を記した出雲国風土記が現存し、出雲大社や由緒ある古くからの神社等が存するなど、歴史的な風情も感じさせます。このことから、島根県に対して涸沼や鹿島神宮を持つ茨城県に比較的近い印象を受け、親近感を覚えました。



会場

大会一日目

大会一日目は、全体会議の後、各部会に分かれ、その内『地方都市における都市再生』をテーマに、長野県飯田市、長崎県諫早市、島根県益田市のこれまでの施策や中心市街地活性化基本計画を活かしたまちづくりの事例発表及びそれに基づく討論に参加しました。



開会式

まず、飯田市から「都市再生へのマネジメント～飯田市中心市街地の取り組みから～」として発表がありました。同市の市街地再開発の特長として、住宅床の開発を中心に考え、小規模でも地域の合意形成がされた区域から再開発を行うことによって別の再開発を呼び込む施策を行っています。そして、それをサポートするために市民主導による「まちづくりカンパニー」が発足されています。

次に諫早市から「諫早市におけるコンパクトなまちづくり～来たくなるまち 来やすいまち 住みたくなるまち～」として発表がありました。客足が遠のいた市街地に賑わいを戻すために、



店舗等の改装・整備支援や図書館，商業施設複合マンションの建設等の整備改善を行うとともに，大型店舗跡地への共同店舗開設や無料駐車場等の整備，街路の整備等を行うことによって，市街地の魅力を向上させ，客足を回復させつつあるということです。

最後に益田市から「益田市中心市街地のまちづくり～駅前ぎわいゾーンの創出にむけて～」として発表がありました。郊外店の進出等により駅前の求心力が弱くなったことから，駅周辺に店舗や住宅，ホテル，公益センター等の複合ビルの開発を行うとともに，駅前駐車場を建設して集客能力を高め，駅から近距離にある芸術文化センターまでの通りを「益田市中心市街地活性化基本計画」のテーマである「ゆっくり歩けるまち・益田」を念頭に置いた道路の改良を行い，駅付近の回遊性を向上させているとのことでした。

また，3市とも共通して，再開発事業を活かすため今後とも住民との協働等によりまちづくりを行きたいと話していました。

その後，再度全体で集まり，それぞれの部会から結果報告が行われた後，「出雲の魅力」をテーマに島根県立大学 短期大学部名誉教授の藤岡大拙先生より記念講演があり，大会一日目は終了しました。

大会二日目

大会二日目は，現地調査として「古代出雲の魅力あるまちづくり」コースに参加し，出雲大社門前町をはじめとして県立浜山公園，揖斐川（ひいかわ）放水路事業，出雲市駅周辺地区土地区画整理事業を見学しました。



出雲市駅



出雲大社（拝殿）



部会会場

出雲大社は日本最古の神社建築の形式を持った大社造りの神社であり，この出雲大社を中心に門前町が作られております。しかしながら，近年，出雲大社周辺の市街地を回遊する観光客が減少し，市内の住人も郊外の大型店へ流出していることから，電柱の地中化や道路の美装化，地域住民の協力による軒先アート等のもてなしを行うことによって，街並みの魅力向上を図っています。これにより，市街地を回遊する観光客が増加し，付近の住民も街並みを散策するようになり，賑わいが戻りつつあるとのことでした。



県立浜山公園は、従来砂地であったところを今からおよそ250年前に地元の篤志家が黒松の植林を行うことにより飛砂被害が減少し、緑地となった地域に作られた公園です。公園を建設するにあたり、県では、地域の由来に基づき、黒松を極力残すように計画するなど、環境に配慮した設計を行っています。



出雲大社門前町



斐伊川放水路事業

斐伊川放水路事業は、斐伊川、神戸川流域の氾濫により島根県東部に幅広い浸水被害が発生したことから計画された事業です。斐伊川と神戸川とを繋ぐ放水路を設け、斐伊川の水を神戸川に放流し、大社湾に注ぎ込ませることによって、斐伊川から宍道湖への流量を減少させて水害を解消しようとする事業です。

斐伊川放水路は現場に近づくと圧倒されるほど巨大な事業であることがわかり、その大きさに威圧感を覚えるとともに、ここまでの規模の放水路建設を要するほど、当時の浸水被害の規模が相当なものであったが事が想像され、ただ驚くばかりでした。

出雲市駅周辺地区土地区画整理事業は、以前貨物線等があった土地に区画整理を行い公園や道路の整備、駅の高架化による線路で分断されていた南北部のアクセスの向上等によって、地域住民の交流活性化を図っていくとのことです。

おわりに

今回、様々な都市計画やまちづくりの状況を担当者から直接窺い知ることが出来、参考になりました。近年全国的に、現在の都市の状況を踏まえたうえで、将来的に、市街地と郊外の秩序をどう保ち続けていくか様々な有効策が模索されている中、各地域がどのようなまちづくりの形を描いているのかを知ることが出来たのは大変貴重な体験となります。

また、記念講演では島根県性質に触れながら「その地方の性質は欠点ともなるが魅力ともなる。まちづくりは今の魅力を活かすことが大切。」との旨の話しがあり、とても印象深く感じました。

今後この体験を無駄にせず有意義なものにしていきたいと思えます。